

■木製の楽器について

温度・湿度の調整

木製の管体やパッドは天然の素材でできており、温度や湿度の影響を受けやすいので、定期的な調整が必要です。以下のような症状が現れた場合は、お買い上げ店または弊社サービスセンターへご相談ください。

- 接合部がきつくなった。
- 音が出にくくなった。
- パッドの表面が切れた。
- キーの雑音が大きくなった。
- 管体が割れた。

■銀めっき仕上げについて

めっき加工されている金属部分はその性質上、ご使用にともない変色、摩耗します。

また、ゴム製品、石油製品、排気ガス、火山性ガスなどに含まれる硫化ガスにより変色することがありますが、ご使用には影響ありません。

金属部分の腐食、摩耗が激しい場合はお買い上げ店または弊社サービスセンターへご相談ください。

■注意事項

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 小さな部品を誤飲する恐れがあるため、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 針のように鋭い部品を使用していますので、扱いには充分注意してください。
- 破損がある場合は、使用を中止してください。

掲載コンテンツの内容、テキスト、
画像等の無断転載を固く禁じます。

BUFFET CRAMPON

株式会社 ビュッフェ・クラムポン・ジャパン

〒135-0016 東京都江東区東陽4-8-17
TEL.03(5632)5511 FAX.03(5632)5526

営業時間 10:00~18:00(日・月曜日、祝日定休)

ショールーム TEL.03(5632)5728

サービスセンター TEL.03(5632)5524 (10:00~17:30)

取り扱い説明書

〈ビュッフェ・クラムポン〉〈ヴェンツェル・シュライバー〉
ファゴット/フレンチバスン



掲載コンテンツの内容、テキスト、
画像等の無断転載を固く禁じます。

BUFFET CRAMPON

Bassoon

ファゴット/フレンチバスン



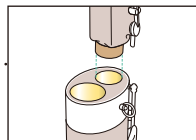
掲載コンテンツの内容、テキスト、画像等の無断転載を固く禁じます。

■ 組み立て

キーに過度な力が加わらないよう、注意しながら組み立てます。また、各連結キーが正しい位置にくるよう、注意してください。

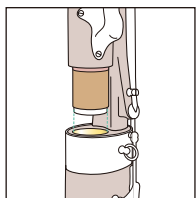
1. 各接合部のコルクに指で薄くコルクグリスを塗ります。

※ コルクグリスは毎回塗る必要はありません。楽器が新しいうちや組み立てる際にギシギシ音がするような場合にご使用ください。



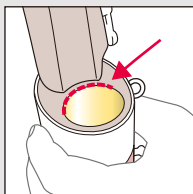
それでも接合部がかたく組み立てにくい時は、無理せず専門の技術者に調整してもらいましょう。

2. ウイングジョイントを組み立てます。ウイングジョイントをブートジョイントの小さい方の穴に差し込みます。

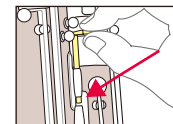


接続部の弧が、ブートジョイントの大きい方の穴の弧と沿うようにします。

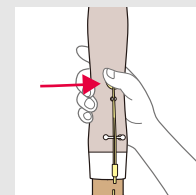
3. ロングジョイントを組み立てます。ロングジョイントをブートジョイントの大きい方の穴に少し左右に動かしながら差し込みます。(このとき、左右に動かしながら差し込みますが、低音Dのポストや、管体ロックが、ウイングジョイントに当たらないように注意してください。)



4. 管体をロックします。管体ロックをあわせ、ロック棒を差し込みます。

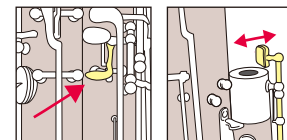


5. ベルを取り付けます。ベルをロングジョイントに差し込みます。

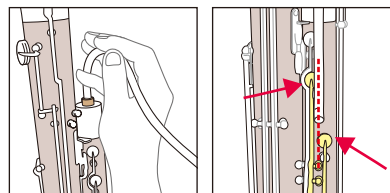


必ずベルのキーを押さえながら差し込みましょう。

6. ボーカルを取り付けます。PPキーロックが解除されていることを確認し、ボーカルを曲げないように注意しながら、ウイングジョイントを差し込みます。



ボーカルの向きは、先端がHigh Cキーと、A Oct.キーの間にくるようにします。



7. ハンドレストを取り付けます。

8. あらかじめ十分に水に浸したリードを差し込みます。

■ ピッチの調整

楽器にあったリードやボーカルを選ぶことで正常なピッチが得られます。楽器が十分に温まった状態でピッチを合わせてください。

■ お手入れ

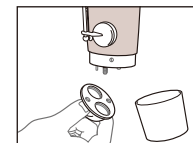
● スワブを通して管内の水分を取ってください。

● ボーカルはウイングジョイントから外して息を吹き込んで、水分を飛ばしてください。

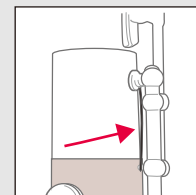
● U字管に水が多くなった場合は、U字管をはずして水分を取りのぞいてください。

● U字管に水が溜まっている状態で楽器を傾けると、管内に水が廻り管体木部の変質の原因となりますので、充分気をつけてください。

● トーンホール、パッドに水滴がたまっている場合は、吸い取り紙などを軽く数回はさんで水分を吸い取ってください。



● 管体、キー表面を柔らかい布で拭き、指紋や汚れを取ってください。このとき、キーやバネに過度な力が加からないようご注意ください。



針バネや金属部分で怪我をしないように注意しましょう。

※ ストラップリングやバランサーには、過度の負荷をかけないように楽器に手を添えて持ち運びましょう。破損の恐れがあります。